



総 題 霊の結ぶ実

SDA聴覚しょうがい者友の会教材部

第 8 課 霊の結ぶ実^みは誠実^{せいじつ} 村沢 秀和 2010, 2, 13~2010, 2, 19

はじめに 2月13日（土曜日）

2年前に、アメリカのローマリンダ日本人教会に行く^{きかい}機会がありました。大勢の日本人が教会に集まっていてびっくりしました。教会の役員の方たちと一緒に食事をしました。皆さんアメリカで成功した人たちのように見えました。病院関係者や、植木屋さん、車の修理工場を経営している人もいました。わたしはその車の修理工場を経営している男性に「アメリカでお仕事^{ひげつ}が成功した秘訣は何ですか？」と尋ねました。すると、「誠実に仕事をするということです」という答えが返ってきました。車の修理をする会社はロサンゼルスにたくさんありますが、ねじを付け忘れたり、オイルが漏れたり、お金の不正があったり、いいかげんな業者が多い中、日本人はまじめで不正をせず誠実に仕事をしていくうちに、お客さんが自然に増えていったということでした。わたしはそれを聞いて、「誠実さ」というのは大切だと思いました。そして、特にクリスチャンというのは誠実でなければならないと思いました。

今日は、霊の結ぶ実^{ちゆうじつ}として「忠実（誠実）」を学びます。辞書を引きますと「私利私欲^{しりりしよく}をまじえず、真心^{まごころ}をもって人や物事^{ものごと}に対すること」とあります。また聖書のギリシャ語の意味は、「信頼される人」という意味があるそうです。誠実の実は、人から信頼されるために、クリスチャンになくなくてはならない大切なものだと思います。

1. 神は真実 2月14日（日曜日）

誠実さは神のご性質です。神様にはうそがありません。神様が約束されたことは、必ずそのとおりに成し遂げてくださいます。だから、わたしたちは安心していられるのです。同じように、わたしたちも誠実であるとき、まわりの人は一緒にいたいと思うようになります。そこには安心と喜びがあるからです。

ある詩人の言葉・・・「どこかに涼やかな河が流れていれば、旅人^{たびびと}たちが必ず寄ってくる。彼らは河のほとりで水を浴びたり、飲んだり、安心してくつろぎ、楽しむ。誠実な良き人はこの河のようである。良き人を疑^{うたが}ったり警戒する者はいない。皆、仲良く友だちになりたいと願う。良き人は楽しみを与え、苦しみは与えないからだ」。

2. 不信仰—終わりの時の徴 2月15日（月曜日）

イエス様はこう言われました「言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか」（ルカ 18:8）。世の終わりには不信仰な時代が来るといことです。人が人を信じられないときがくるのです。

また、テモテ 3:1～には、「しかし、終わりの時には困難な時期が来ることを悟りなさい。そのとき、人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き・・・」（テモテ 3:1～2）と書かれてあります。自分のことを優先し、お金を愛し、ほら（うそ）をつきます。だから、ますます人が信じられなくなっていくます。このような時代だからこそ、誠実さは大切なのです。人から信用される人間になりたいものですね。

3. 信仰の模範 2月16日（火曜日）

ヘブル 11章にはたくさんの信仰者たちが紹介されています。最初に紹介されているのはアダムの子アベルです。「信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証明されました」（ヘブル 11:4）。

アベルは神様から言われた通り忠実に子羊を供え物としてささげましたが、カインは自分の手柄のように畑の収穫物をささげました。アベルが正しいものとされたのは、神様に対して忠実だったからです。わたしたちも人に対して誠実である以上に、神様に対して誠実（忠実）でなければなりませんね。

4. 日常生活における忠実 2月17日（水曜日）

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」（ルカ 16:10）。このイエス様のみ言葉はとても有名ですね。忠実に生きるためには、まず小さなことから始めましょう。小さなことを面倒に思っいい加減にする人は、大きなことに対しても不忠実になります。

5. 終わりまで忠実 2月18日（木曜日）

もし、いつまで忠実（誠実）に生きなければならないのかと問うならば、それは最後までです。愚かなおとめのたとえ話は、油を切らし不忠実だったおとめたちが天国に入れなかった物語です。だから、最後の最後まで忠実でなければなりません。

しかし、考えてみますと、この忠実さ、誠実さというのも霊の実です。ですから、イエス様といつも一緒にいる人は、「いつまで忠実でなければならないか」などと問うことをしません。それは品性の一部として自然に身に付いているものだからです。

誠実さは、がんばって、努力して得るものではなく、イエス様といつも共に生きることによって与えられるものだということを忘れないようにしましょう。